

あきたスギッチファンド通信

No. 19 2015年1月27日発行



認定特定非営利活動法人

あきたスギッチファンド

TEL 018-839-8941 FAX 018-829-5803

e-mail madoguchi@sugicchi-fund.jp

<http://www2.akita-kenmin.jp/~akita-npo-fund/>

ファンドの寄付金受取状況

(26年8月～26年12月)

本ファンド	
団体寄付	2,963,135 円
個人寄付	250,200 円
合 計	3,213,335 円
分野指定	
除雪問題	677,450 円
合 計	677,450 円
総 合 計	3,890,785 円

1月というと、6年前の1月27日イヤタカで開催されたあきたスギッチファンドの設立総会の日のことが思い出されます。この6年間、あの時の会場の熱気と参加した皆さんの思い、そして使命感とでスギッチファンドを運営してきたような気がします。スギッチファンドの意義をアピールする方法を改めて考えてみる時期かもしれません。

今年度は、スギッチファンドをもっと広く知って支援して頂きたいという思いから、秋田銀行や秋田県の職員の皆様にご寄付をお願いしました。秋田銀行は初めてですが、秋田県には毎年お願いしております。今回どちらからも大変好意的に受け入れて頂き、寄付額は秋田銀行行員の皆様からは100万円余、秋田県職員の方々からは40万円余となりました。本当にありがとうございました。

秋田銀行行員有志支援による あきたスギッチファンド寄附金贈呈式

このたび株式会社秋田銀行様が、「高齢化先進県秋田の課題解決に一石を投じるような新しい取り組み」を対象として、行員に寄附を呼びかけたところ、1,318名の皆様から101万5千円の寄附が寄せられました。行員の皆様、ありがとうございます。

あきたスギッチファンドでは、冠ファンド「活力ある高齢社会づくりファンド」として昨年の10月から募集し、12月14日の公開審査会を経て、「秋田市赤十字奉仕団」と「NPO法人由利本荘にかほ市民が健康を守る会」の2団体を助成対象に決定しました。

1月27日秋田県庁を会場に、秋田銀行常務取締役営業本部長西村典剛氏から、助成2団体への寄附金贈呈式が執り行われました。各団体の代表者からはお礼のことばが述べられました。

1月27日は6年前あきたスギッチファンドが設立された記念すべき日、会場は二重の喜びに包まれました。



「雪に負けない地域づくりファンド」事業

あきたスギッチファンドでは、今年度新規事業として秋田県から「共助組織等設立支援事業」を受託した。11月から3月まで雪に見舞われる秋田県。特に高齢化率の高い秋田県では、雪で生活に支障をきたす人、雪で怪我をする人、命を失う人が後を立たず、深刻な社会問題となっている。地域の安心安全のためには、町内会、企業、ボランティア、NPO等による共助組織を結成し、地域ぐるみで除雪対策を進める必要がある。

そこで「共助組織等設立支援事業」では、次の2事業を実施した。

- 1・各地域に共助組織を立ち上げるために要する資金を確保するために、広く企業、行政、個人から寄付を募る。
- 2・共助組織を立ち上げる団体に対して、上限10万円を助成する。

資金確保

あきたスギッチファンドの持つ経験を活かしながら資金調達に努めている。目標110万円に対して、12月末現在677,450円と61%の達成率である。除雪問題の深刻さは理解されているが、寄付については思うように進まない現状である。

共助組織立ち上げ助成

分野指定ファンド「雪に負けない地域づくりファンド」を組成、共助組織を立ち上げる団体を、県内3地区に分けて10月と12月に募集した。ヒアリング方式による審査を経て、以下のように助成団体を決定した。



県南地区第1回審査



県北地区第2回審査

県南地区

審査委員

◎委員長

沼倉 充	NPO法人秋田県南パソコン支援市民ネット 副理事長
出雲 広大	NPO法人みさぼと 事務局長
◎湯元 巖	秋田県企画振興部地域活力創造課 課長

第1回 10月10日から31日まで募集。

11月11日公開審査会を実施。審査の結果下記2団体が採択された。

羽場・市野・皿小屋地域生活サポートシステム	旧小安小学校羽場分校の学区となっていた羽場、市野、皿小屋の3集落の有志で共助組織を設立。「結い」の精神での助け合いを目的とする。
岩崎生活サポーターの会	湯沢市岩崎地区では、従来有償ボランティアで雪寄せを行ってきたが、高齢者の増加に伴って継続していくために、組織的な除雪体制を構築する。

第2回 12月1日から22日まで募集。
1月13日公開審査会を実施。審査の結果下記2団体が採択された。

船沼除雪支援ボランティア 組織 船沼SVO	雄物川町船沼地区では平成23年から除雪ボランティア活動を行っている。しかし高齢者の増加の中で、無償の活動をどこまで続けていけるか、新しいメンバーをどう確保するかが課題になっている。今後を見据えた活動体制を構築する。
黒沢共助隊	美郷町黒沢地区は、過疎化、高齢化の深刻な地域。地域住民による共助組織を立ち上げ、除排雪作業のほかに買い物支援も行い、これからも安心して住み続けられる地域づくりを目指す。

中央地区

審査委員

◎委員長

佐藤 治雄	秋田ユネスコ協会 会長
藤原 絹子	NPO法人あきた花まるっグリーンツーリズム推進協議会 事務局長
◎湯元 巖	秋田県企画振興部地域活力創造課 課長

第1回 10月10日から31日まで募集。
11月12日審査会を実施。審査の結果下記2団体が採択された。

稗田南サポートシステム	牛島西2丁目地区・稗田南町内を対象に共助組織を立ち上げ、除排雪などの支援活動を行うとともに、地域コミュニティの活性化と地域力の強化を図る。
牛島西4丁目共助の会	かつては新興住宅地であったが、時の流れと共に地域住民の高齢化が進んでいる。町内会、民生委員、自主防災隊などとの連携・協力により、除排雪活動を継続できる運営組織の構築を目指す。



第2回 12月1日から22日まで募集。
1月15日審査会を実施。審査の結果下記3団体が採択された。

ほっとライン～田舎をまもろうプロジェクト～INあきた	秋田市内の若者たちで結成した団体。外旭川、飯島、将軍野、土崎地区を対象に、高齢者への助け合い、支え合いの精神で除排雪作業を有償で行い、高齢者が暮らしやすい生活ができるよう活動する。
種沢共助プロジェクト	秋田市雄和「種沢地区」の消防団に属する若者有志が中心になって、高齢者だけの世帯の雪下ろし、除排雪活動を行う共助組織を立ち上げる。今後、社会福祉協議会、大学生、移動販売業者など様々な団体と連携・協力しながら共助活動を実施する。
サークル山鳩	由利本荘市鳥海町地域内で、長年ボランティア活動をしてきた団体が、一人暮らしの高齢者世帯を対象に、雪下ろし・除排雪活動を行う。社会福祉協議会との連携、中学生への参加呼びかけなど、地域づくりに携わる人を増やしていく。

県北地区

審査委員



◎委員長

大塚 一生	能代市市民活動支援センター センター長
佐藤 博信	大館市役所総務部企画調整課 主任
◎湯元 巖 *	秋田県企画振興部地域活力創造課 課長

*第1回の審査は、都合により湯元委員に代わって、同課石川至班長が審査を務めた。

第1回 10月10日から31日まで募集。
11月14日審査会を実施。審査の結果下記1団体が採択された。

旭ヶ丘二区町内会 共助・除雪隊	高齢化の著しい旭ヶ丘地区で、住民自身が主体となり助け合い、支え合いの精神で「共助活動」を実施することにより、安心して住み続けられる地域づくりを図る。
--------------------	--

第2回 12月1日から22日まで募集。
1月17日審査会を実施。審査の結果下記2団体が採択された。

沢尻壮年会	鹿角市十和田錦木の沢尻地区の50代の中高年を構成員とする「沢尻壮年会」を中心に、高齢者を支援する仕組みを作り、冬季は雪下ろし、夏季は草刈り支援を無償で行う。自治会内の住民が安心して住み続けられる生活基盤を確保できるよう、継続的に支援する。
NPO法人 ハートランドひまわり	当NPO法人は心の問題や精神の障害を持っている当事者とその仲間の会。法人スタッフと地域のボランティアが一緒になって、大館駅前を中心とした旧市内で、独居または高齢者のみの世帯の除雪困難な方を対象に、有償で作業する。

共助除雪隊の活動

鳥海山麓の旧鳥海町地区は、県内有数の豪雪地帯。この地区で36年間にわたってボランティア活動を行っている「サークル山鳩」が、高齢者宅の雪下ろし・除雪活動を行う共助隊を結成した。会では、市の社会福祉協議会と連携し、さらに中学生にも呼びかけて活動の輪を広げ、地域の絆を深めていきたいと考えている。

1月18日、サークル山鳩メンバー10名と社会福祉協議会8名が参加して、笹子・川内・直根地区の除雪活動を実施した。屋根の雪下ろし、家まわりの雪よせ作業を行ったが、参加者が多かったので約2時間で終了することができた。一人暮らしの高齢者は、「地域の組織で知り合いが作業してくれるので安心」「本当に助かる」と話していた。



第12回（2014年度第2回）助成先決定

第12回あきたスギッチファンドの募集は、10月15日～11月15日に行われた。応募状況は下表の通りである。

応募状況一覧

ファンドの種類	募集件数	応募件数	採択件数
本ファンド 10万円コース	5	3	2
30万円コース	5	3	3
50万円コース	1	0	0
冠ファンド「活力ある高齢社会づくりファンド」 30万円コース	2	2	2
東日本大震災避難者支援応援ファンド 10万円コース	2	0	0
20万円コース	1	1	1

例年より1カ月早く募集したせいも、例年より応募が少なかった。募集時期が悪かったのか、広報が行き届かなかったのか、助成金を得て事業を実施する団体が少なくなったのか、スギッチファンドの助成金に何か問題があるのか、今後調べていく必要があると思う。

12月14日（日）、第12回あきたスギッチファンド公開審査会が遊学舎に於いて開催された。本ファンド10万円コースは、書類審査と協議で決定した。当日のプレゼンテーションは6団体といつもより少なめだったので、ちょっと余裕をもって審査することができた。

本ファンド

10万円コース

団体名 ふれ愛塾（横手市）

事業名 ふれ愛サロン事業

高齢化が進む中で、歳を重ねても生き生きと自分らしく生きられるよう、「介護予防」の取組みが求められている。そのために本事業では、地域に住む住民の元気づくり、仲間づくりを目的として、地域住民同士の交流の場づくりを行う。手芸や講話、交流会などのイベントへの参加を通して、近所同士でお互いに支え合える人間関係を築く。



団体名 ハラウ・フラ・ハク・レイ（大館市）

事業名 地域ふれあいフラコンサートの開催

団体が10周年を迎えるのを機に、フラダンスサークルだけでなく他のサークルと連携して大館市立文化会館大ホールでチャリティ公演を行う。日ごろの練習の成果を披露する機会にするとともに、多くの団体がお互いに関わりをもつことで、活動やコミュニティの場が広がり、地域の元気につながることを期待される。

30万円コース

団体名 **NPO法人あきた花咲く教師力ネット**（大館市）
事業名 **教師・カウンセラー・保護者で学ぶ子育て親育て**

最近発達障害の子が増加している。それに対して、保護者、教師、学校全体が適切に対応できず悩んでいる。本事業では、悩んでいる教育関係者、子育てに困っている保護者等への具体的、実践的な演習なども取り入れた講座を大館市、秋田市、横手市で計5回開催する。講師陣は、臨床心理士、特別支援教育コーディネーターなどの専門家。

団体名 **土方巽記念秋田舞踏会**（秋田市）
事業名 **障がい者のための舞踏ワークショップ「心と身体の学級」秋田クラス**

知的障がい者と健常者が共に踊り、ダンスを通じて心と身体を開放させる中嶋夏のワークショップ「心と身体の学級」秋田クラスを7月に開催する。障がい者と一般の人たちが一緒に体を動かし、コミュニケーションを図ることによる効果が期待される。また、中嶋夏は秋田出身の舞踏家土方巽の直弟子であり、世界的舞踏家土方巽の舞踏芸術を体感して頂く機会となる。

団体名 **草木谷を守る会**（潟上市）
事業名 **繋がる・広がる草木谷コミュニティー山田の盆踊り復活プロジェクト**

草木谷の地域住民に加えて、これまでも草木谷の再生活動に関わっている学生や団体・個人を巻き込んで、山田地区の盆踊りを復活させ、8月にみんなで楽しめる盆踊りを実施する。盆踊りを中核にして、地域内外の人たちを巻き込んだ交流のコミュニティを広げ、繋げていきたい。

冠ファンド「活力ある高齢社会づくりファンド～秋田銀行行員有志支援による～」

秋田銀行行員有志の支援による当冠ファンドは助成額30万円。その審査には、秋田銀行地域サポート部の児玉大平氏も加わった。児玉氏からは各団体に事業を継続しアクティブシニアを増やして欲しいと要望が述べられた。

団体名 **秋田市赤十字奉仕団**（秋田市）
事業名 **あきたシニアカレッジ**

法律、経済知識、福祉の知識、健康問題など高齢者に必要な知識を学ぶカレッジを開講する。正しい知識を得ることで安心安全な生活に繋げるとともに、高齢者の交流の機会とする。秋田市赤十字奉仕団の会員だけでなく広く一般募集する。赤十字奉仕団の会員には、地域の女性リーダーとして、このカリキュラムを各地域で広めて、アクティブなシニアを増やして欲しい。



団体名 NPO法人由利本荘にかほ市民が健康を守る会（由利本荘市）
事業名 運動と会話で生活習慣病や要介護を予防

法人事務所にランニングマシンや筋肉トレーニングマシンを設置し、地域住民に利用してもらおう。また運動療法の講師を定期的に招聘し、市民対象の勉強会を開催する。

このことにより体力増進、生活習慣病や精神疾患の予防、要介護予防につなげることができるし、住民同士のコミュニケーションを図りながら運動の重要性と疾病の予防について学びあうことができる。



東日本大震災避難者支援応援ファンド

20万円コース

団体名 まちなかトープ（北秋田市）
事業名 避難者の定住促進に繋ぐ秋田の魅力体験列車

避難者の中に「秋田に残りたい」という声が大きくなっているという。

そこで、
・秋田内陸縦貫鉄道を利用した雪景色ツアー
・除雪車両、電車等の乗車体験
・郷土料理の食事会とお楽しみ会
等を行うことで、秋田の魅力を伝え、被災者の生活拠点の選択肢として秋田を選んでもらうきっかけづくりとする。

助成金でこんな活動をしました

Let's join job's joy!!

NPOヒューマンネットワークあきた

代表 川村 多恵子

（第10回（平成26年1月）本ファンド50万円助成）

不用品、寄付品などを収集、販売する「リサイクル工房めぐりん」を開設・運営する。

障がい者の社会復帰に取り組むNPO法人、冠婚葬祭や遺品整理などを請け負う会社、生活困窮者を支援するNPO法人の代表者が新しい団体を立ち上げて事業実施。ここでは、生活困窮者、



保護受給者、ひきこもり、精神障がい者が、社会参加トレーニング、就労支援の機会創出として、不用品、寄付品の選別、クリーニング、値段付け、店舗運営を行っている。マスコミや社会福祉関係者から注目されているし、寄付品も多く集まり、ファンも増えて、経営は順調である。

リサイクル工房めぐりん
の店舗状況

のんびりわくわく保養プロジェクト！2014夏

福島子ども保養基金

代表 結柴 依子

(第10回(平成26年1月)冠ファンド「三国子ども震災支援ファンド」で30万円助成)



2014年7月27日～8月7日、福島県内から親子31名を秋田県と山形県に招待。由利本荘市では農業体験や乗馬体験、野外キャンプを、酒田市では海水浴や魚釣りをした。放射線の影響を気にすることなく野外活動を楽しんでもらった。

米内沢駅活性化事業

NPO法人 北秋田ハッピーデリバリー

代表 佐藤 信子

(第11回(平成26年7月)冠ファンド「ダイドーいのちを守る活動支援ファンド」で30万円助成)

北秋田ハッピーデリバリーは、北秋田地域に住む高齢者の生活支援事業を実施する法人。本事業では、高齢者世代の閉じこもり予防、自殺予防活動として、米内沢駅舎の施設を活用して、高齢者の生きがい作り、心の健康作りのための『憩いのスペース』を開設した。

米内沢駅が楽しくなる

『憩いのスペース』開設！！

平成26年
8月2日(土)
10:00～オープン

先着100名様に
お菓子詰め合わせプレゼント！！

コーヒーコーナー	駄菓子コーナー	直売コーナー

※いずれのコーナーも毎週 月・水・金 9:00～15:00

憩いのスペースには、地元産の新鮮野菜を1個100円で売る直売コーナー、一杯50円のコーヒーコーナー、1個10円～30円の駄菓子コーナーがあり、高齢者のくつろぎの場として賑わっている。



花を植えるなど駅周辺の環境を整備した。

あきたスギッチファンド助成金を活用し、米内沢駅周辺の環境整備と地域住民の憩いの場作りをはじめました。地域のみなさんと一緒に、たくさんの交流が生まれる場を目指してまいります。



みなさまのお立ち寄りをお待ちしております。



【運営】NPO法人ハッピーデリバリー・米内沢駅前自治会 【連絡先】0186-72-3816